

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

令和3年8月1日
第 57 号
発行者
神山則幸

コロナ禍で見えたもの

支部長 神山 則幸



依然として
新型コロナウイルス
の収束がみら
れず、さらに

八月中旬まで「まん延防止重点措
置」が発出される中、埼玉県北足
立南部支部退職校長会定期総会が
二年続けての書面決議となつてし
まいました。特に今年度は役員改
選の年でもありましたが、やむな
く役員会議の原案を書面にてご承
認をいただきました。その結果、
副支部長の沖内義次氏に代わり朝
霞班から推薦されました小川廣徳
氏が、加藤慶隆氏に代わり草加班
から関口憲二氏が副支部長に選任
されました。沖内、加藤両先生に
は永年にわたり副支部長としてご
活躍いただき、心底より感謝申し
上げます。その他の支部長・副支
部長は再任となりました。会員の
皆様には引き続きのご協力をお
願い申し上げます。

さて、今年度の会員数は、五月
二十日現在、川口班二二九名、蕨
戸田班七五名、草加班九五名、朝
霞班一一一名、合計五一〇名とな
りました。

昨年度の諸行事は少人数の会議
を除き、ほとんどが中止となり一
堂に会しての交流ができませんで
した。今年度も同様の状況が続い
ており、人との接触が極めて少な
くなり、いまさらながら今日(教)
行く(育)と今日(教)用(養)

絃一が高一前に大変身

川口班 山下 絃一



この写真を
見て、「あんだ
誰。」と言われ
そうだから近
況報告の巻頭

言になってしまった事、お許し願
う。今年一月六日が七十四歳の誕

の必要性を痛感しています。

新たに変異型ウイルスによる感
染が拡大していく中、一日も早く
日常生活を取り戻そうとワクチン
接種が急がれています。スマホや
パソコンでの予約申し込みが、高
齢者にとっては容易ではなく、先
行接種もままならないと聞きます。
幸い私は、個人病院での窓口予約
により六月初めには二回目のワク
チン接種を済ませることができま
したが、何か時代の流れに取り残
されていくような気がしています。

学校では、児童生徒に一人一台
のタブレットが提供され、リモー
トによる授業や個別学習など様々
な教育活動が展開されていると同
じです。教員にとつては大変な
なことと思いますが、「大変」と
は「大きく変える」ことです。時
代の流れに沿いながら、学力向上
が図られるよう期待しています。

生日、併せて免許更新である。

川口警察に行つた所、視力検査
で×。両親の糖尿病を受け継ぎ、
服用しながらの糖病生活。特に、
「糖尿だよ、おっかさん」の影響
が大で、何となく見づらくなって
きていた。別に内緒にしなくても

「白内障」の診断。「手術すれば
少しは視力が回復するが、失敗す
ると失明する事もゼロではない。」
と、脅された。麻酔注射を両目に
する事も何となく怖い。しかし、
家訓で、常に言い聞かせている、
「逃げたらあかんっ！」に勇気を
もらい入院。三月二十三日左目、
二十五日右目。その時も、「逃げ
たらあかんっ！逃げるといふ事は
天に唾するのと同じ事。必ず自分
に返ってくる。逃げたらあかんっ。」
の言葉が背中を押してくれた。

無事に退院でき、コロナ禍でも
世の中が明るくなったと感じた。
左目0.7、右目1.5で視力検査
もO・K、無事に免許更新が出来
た。宮崎県日南高校一年の時に、
眼鏡をかけて以来、五十八年振り
に眼鏡なしに。高校は坊主頭、だ
つたから、手術成功を記念して丸坊
主に。つまり、坊主、眼鏡なしの
大変身を遂げた次第。「人生には
三つの坂あり。」上り坂、下り坂、
まさか、まさかの眼鏡なし！

「眼鏡はどこ？」と、さがしま
わる事も、頭の上に手をやる事か
らも解放された。高一以来、永遠
の絃一誕生となった。煩わしさが
一つ減り、明るい世界が蘇ったが
坊主頭だけは、孫、息子、家内
には不評この上なしである。

新会員短信

恩師の教えを教職員へ

川口班 川鍋 岳人

昨年度末に定年退職し、現在は市内中学校で再任用校長として勤務しています。勤務校は、私が初任の時に世話になった中学校です。まさか、三十数年後に戻り、かつてご指導いただいた校長先生方と同じ立場で職に就くとは夢にも思っていませんでした。

日々先生方に伝えていることや私の教育観の元を振り返るとその多くがかつて校長先生方にご指導いただいた事柄だと気づきます。当時の校長先生方は教育の本質や時代の先を見る目をお持ちだったのだと改めて感じています。

校長という立場で教職員と共に学校で仕事ができる幸せを実感し、教職員が生涯にわたって大切にできる教育の本質の部分を少しでも伝えていきたいと思っています。

今、あらためて思うこと

草加班 高木 宏幸

まずは、ここ一年以上の間、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、日々、教育活動に取り組んでいる学校現場の皆様から敬意と感謝を申し上げます。

私は校長職にあつた時にも、行政の責任者であつた時にも、教育実践の根源に「子供たち一人一人を心の底から『かけがえのない存在』としてとらえること」を置いて職務遂行に努めてまいりました。

このことを肝に銘じて教育課題に立ち向かうことで解決への道筋が見えてきた経験からあらためてその大切さを実感しております。

これまで退職校長会から学校教育に対し、ご支援をいただきましたが、これからは退職校長会の一員として、学校教育を応援してまいるりたいと思っております。

我慢と辛抱

川口班 中河 正明

「教職最後の年はどんな年でしたか？」という問いに対して、「辛抱の年でした。」と答えたいと思います。「我慢」とは、嫌なことをただ耐え忍ぶことです。「辛抱」

とは、好きなことのために耐え忍ぶことです。新型コロナウイルス感染症で色々な制約が多くありましたが、そのような状況下での教育活動において、子供たちの笑顔が多く見られたことが「辛抱」に繋がったことと確信します。

縁があり、四月からも再任用校長として勤務しております。コロナ禍ではありますが、教職員の英知を結集して教育活動を豊かなものにしていきたいと思えます。そして、少しでも子供たちの笑顔が多く溢れる学校づくりに微力ながら取り組んでいく所存です。

恩送り

朝霞班 菅野 潤一

定年退職後、二年間の再任用校長期間は、コロナ禍での学校経営でした。臨時休校や教育活動の制限などがあり、今までは違う難しい決断をしなければなりません。このような状況の中でも、皆様のご支援のお陰で、無事に校長職を終えることができました。

四〇年間の教職生活では、多くの素晴らしい人との出会いと縁に恵まれていました。皆様方からいただいたご指導とご厚意へのご恩

データで仕事をする

埼玉県教育局南部教育事務所長

吉田 元



「学校は忙しい。」まさしくその通りです。私たちは県

教育委員会の立場から市町教育委員会が行う学校訪問に同行して、学校の教育活動の成果を認め、助言をしたり、改善を求めたりしていますが、その際にも学校の忙しさを見ています。そうした忙しい中であつても、校長先生方に特にどんな経営をしてほしいのか、私が助言をしている五つのことを紹介させてもらいます。

【信念を表す経営方針を作る】

自分の信念に基づき、児童をこゝろ育てると「決意表明をすること」です。その際、共に実践する教職員の声に耳を傾け、それを生かすことで、教職員が校長の指導力と熱意を感じ、取組に意欲をもてるようにすることが大切です。

【データで仕事をする】

育てたい姿にどれだけ近づいたのか、授業がどれだけ対話的になったのか、時間外の労働は何時間か、自己評価の達成状況は：感覚

は決して忘れることはできません。

四月からは、初任者指導教員として新座市内の中学校五校で勤務しております。未来を切り開く子どもたちを育む教師としての誇りと使命感、教師ならではの喜びを伝えていきたいと思えます。それが私の恩送りです。

柔軟な思考力に期待する

川口班 関口 景子

最終年度は、一斉休業による六月の始業式、入学式をはじめ、何もかもが異例づくしとなりました。感染症拡大防止のため、多くの学校行事等もやむなく中止に。

こうした中、感染症拡大防止に必要な様々な条件を守りつつ、学級や学年で何ができるか、知恵を出し合う多くの若手教員の姿がありました。彼らを頼もしく思うとともに、心から感謝した次第です。この四年間に十一人の初任者を迎えました。若者特有の柔軟な思考力を活かし、着実な歩みを進めています。GIGAスクール構想をはじめとする学校教育の急速な変化には、これまで以上に柔軟な思考力が求められます。これからも、伸びゆく若手教員の成長を見守り

続けたいと考えます。

再出発

朝霞班 内田 隆

四月より再任用教諭となり、再び生徒と直接的なやり取りを楽しんでいます。毎時間の授業や部活動指導など歩くことが多いです。週休日も部活動指導、そして地域教材探しと足を使うことが倍増、いや3倍4倍に増えたように感じています。以前はこんなにも動いていたのかと改めて運動不足を認識させられる毎日です。

おかげでここ二ヶ月、万年筋肉痛のような状態が続いていました。しかし夜はよく眠れます。毎晩、何度も目が覚めていたのが嘘のようです。最近ようやく筋肉痛も落ちついてきました。体力低下と体の硬さを実感させられています。しかし気持ちは「さあ、もう一度！」と決意を新たにしているところです。

通知表

川口班 清水 幹明

「通知表は公簿ではないが、無い学校はない。」初任者研修のことだ。その若者はふと「父は、

僕の小学校からの通知表を缶箱に入れてとってあります。」と言った。胸の奥で何かが共振した。

一月前：GW。兄に誘われ、佐渡の実家に帰って盃を交わしていたときだ。生前の母が、父や兄弟の学生時代の通知表を大切に保管していたのを発見して、兄弟で見入っていた。通知表には当時の自分たちがしまい込まれていた。

通知表が、それぞれの家庭で、永年宝物のように保管されていることがある。この新任教師の父も、私の母も、知っていたのだと思う。通知表、振りかえるためというよりも、未来の自分に向けて込められたメッセージであることを。

『報恩謝徳』

草加班 中村 俊臣

私は、小学校五年生の時に学校図書館にて読んだ『二十四の瞳』での大石先生と子どもたちとのふれあいに感動し、小学校教員になりました。初めからの十七年間は越谷市で、後半の二十一年間は草加市でお世話になりました。

昨年度は、コロナ禍により、今までの当たり前が当たり前にできなくなり、子どもたちと遊べな

でなく「現状を洗い出し、データ化して分析すること」が、経営の基本になります。

【改善はまず一歩踏み出す】

完成度の高い改善案より、「拙速でも一歩踏み出すこと」を教職員に徹底します。それによって机上で考えていただけでは分らなかったことが見えてきます。事故防止策でも働き方改革でも思いついたらまず始めることです。

【初期対応を大切に】

生徒指導やいじめ対応で事態が長期化し、悪化する例を目にします。「事前の一手を大切にすること」で事故は防げます。たとえ問題が起きて、初期の一手が適切であれば、収束に向かう可能性は高く、逆に後からでは十手打つても追いつきません。

【若手を全員で育てる】

平均年齢が三十歳代の学校が多くなっています。「若手の指導力向上に全員で取り組むこと」が結果的に学校の各種課題の解決につながります。

校長先生には、これらをやりっぱなしにせずに見届けをし、教職員と一緒に成果を喜び、一緒に課題を考え改善の手を止めないことをお願いしています。

ったことがとても哀しかったです。そのような中で、大流行した『鬼滅の刃』の十五巻の後書きで『報恩謝徳』という作者の思いを目にしました。受けた恩義や徳に対して感謝の気持ちを持ち、見合ったお返しをする。私も微力ですが少しでも『報恩謝徳』できないかと、今は初任者指導担当として草加市の四校で務めています。

五十年間の肩の荷を下ろして

川口班 瀬山 真一

部活指導で土日も拘束された教諭時代。やってもやっても仕事の終わりが見えない教育行政時代。休日も夜中も二十四時間三六五日学校の全責任を背負って常に緊張していた管理職時代。

更にさかのばれば、高校入試に縛られた中学時代。大学入試に縛られた高校時代。教員採用試験に縛られた大学時代。就職後も管理職試験に……

また、小学生から加入したサツカークラブに始まり、中学のサッカー部、高校の陸上部。振り返れば有意義でしたがほとんど自由な時間が無かった五十年間。多くの方々に支えられ、長年の夢であつた「定年退職」を無事に迎えることができたありがたさを今改めて感じています。

た「定年退職」を無事に迎えることができたありがたさを今改めて感じています。

試された一年

朝霞班 隅田 浩文

教職生活総仕上げとなる最後の一年間は、コロナで始まり、コロナで終わる、予想もできない特別な時間となりました。

先の見通しが持てない中での学校経営。それは、安全な学校生活を保障しながら、どうすれば充実した教育活動ができるのか、考え続ける毎日でした。悩みながらもできることを探ってきた日々は、ある意味、これまでの実践で培った校長としての力量が試される、総仕上げの一年であったとも言えます。

校長職を離れ、自分のために使える時間は増えました。コロナの終息には、まだ予断を許しません。健康にも気を遣いながら、これからは、やりたいと思っていたことに、一つずつチャレンジしていこうと心を躍らせています。



重責から解放されて

川口班 安部 正幸

最後の一年間は、新型コロナウイルスの影響で、これまでの経験が全く通用しない学校経営を迫られました。それでも、何とか定年をむかえることができました。重責から解放されてほっとしていると言うのが正直なところ。現在は、市立教育研究所で生徒指導支援担当の教育相談員として新たな人生をスタートさせました。

話は変わり二〇三五年九月二日は本州で一四八年ぶりに皆既日食が見られる日です（この日は北陸から関東北部）。その時は「定年の頃、コロナウイルスが流行ったなあ。」などと昔話をしながら美しく輝くコロナを見たいと思っています。それまでは、当日晴れることを祈りつつ、無理せずのんびり健康第一で過ごしたいと思います。

思いをつなげる

草加班 水澤 節子

新米教師の時代から県や市の体向上推進研究などに当り、全校体育や授業づくりに夢中でした。学級経営・生徒会・生徒指導・性教育・部活動等その時その時を「無

我夢中に楽しんできたなあ」と省みます。校長として定年を迎え「頑張ってきたなあ」という満足感と緊張から放たれた開放感を味わっています。生まれた余裕の時間は、運動不足で溜まった体脂肪を燃やそうとウォーキングをしたり、素敵な建物や風景・自然に出会おうと旅行をしたりと楽しんでいきます。今は、週四日初任者指導教員に当たっています。もう暫く、教育に関わらせて頂くことに幸せを感じています。子どもたち一人一人を大切に出来る、熱い気持ちの先生を育てていきたいと思っています。

恩送り

川口班 中山 明広

これまで学校教育に携わってることができたのも、多くの方々に支えられてきたからだと感じています。出合いに恵まれていたとも思っています。

子どもたちや先生方の成長の手ごたえこそ、この仕事の喜びだと思っていました。実は、出会った多くの子どもたち、先生方、保護者や地域の皆さんに自分が育てられてきたとつくづく思います。これからの時間、これまで沢山

の方々にお世話になった分、多少なりとも自分ができる恩送りをしていきたいと思っています。

満開の桜に送られて

川口班 木村 達夫

毎日正門で児童と朝の挨拶を交わしていましたが、桜のつぼみがふくらみ始めた頃「やつと暖かくなるな」とほっとしていた時を懐かしく思い出します。

教職生活の最終日、桜が満開の中自分にはもつたないほどの優しい声掛けや花束に囲まれ、心温まる職場を去りました。子どもたち「四月に元気な笑顔で会いましょう」とお別れした寂しさを紛らわすかのような華やかな最終日でした。

翌日から大学の事務職員として勤めています。今までお世話になった方々にしつかりとご挨拶もできず本当に申し訳ありませんでしたが、この場をお借りして感謝申し上げます。

ありがとうございました。



「今、振り返り思うことと感謝」

草加班 中谷 浩一

今、振り返ると多くの人たちのおかげで続けられたことに感謝の気持ちしかありません。特に最後に中学校の経験しかなかった私が全く未知の世界の小学校で校長を務められたのは、温かく素晴らしい先生方、地域や保護者の皆様、そして何よりも子どもたちの笑顔に支えられたからこそです。今までにない多くの新鮮で素晴らしい感動を体験し、無事に教員生活を締めくくることができたことは本当に幸せだと強く感じています。

今は初任者指導教員として中学校三校六名の初任者と共に学び、日々エネルギーをもらいながら切磋琢磨しています。そして、余裕ができた時間の中で、自分の原点である音楽をさらに深めていききたいと考えています。

卒業生と一緒に進級して

朝霞班 高田 雅志

世の男性は（という書き方をするとジェンダーを言われそうですが…）仕事の肩書がなくなると、とたんに自己存在感を失うとか。三月末に「小学校校長」を定年

退職し、幸いご縁があつて、隣の中学校の初任者教員指導の仕事をお願いされました。小学校のほとんどの卒業生がそのまま隣の中学校にと進級する環境で、

「あつ校長先生だ」と子供たちに廊下で言われ、
「先生も一緒に進級してきたよ」と答えながら、複雑な笑みを返している状況にいます。

『前校長』の肩書でなく、今の役割を精一杯果たすことで、自身の存在を示すようにしたいと思いつつ、隣の学校、だよりもついい気になってしまふ日々です。

出合いに感謝し、次の人生へ

川口班 高村 美恵

三十余年の教員生活。山あり谷ありの連続でした。特に最後の一年は、コロナに追われる毎日でしたが、それでも私にとっては、充実した輝かしい日々でした。子供たちの元気な笑顔、教職員や保護者・地域の方々の温かい支え。数々の困難にも校長会の先輩方や仲間たちの励ましで勇気をもらいました。

たくさんの素敵な人との出会いが、私の人生を輝かせてくれました。

た。皆さんとの出会いは、私の人生の宝物です。

これからは、まったりとした時間の流れの中で、季節のしつらえにも気を配りながら、優雅に生きることを目指していきたいと思えます。

物事の見方を意識して

川口班 磯 奈保子

昨年の二月頃から徐々に、右目が見えづらくなり、退職の年度を迎えた四月には、視界がほとんど無く真つ白になっていました。病院で様々な検査をしましたが、原因は分かりませんでした。薬も治療法も無いという状況をどう受け止めればよいか困惑しました。

それでも、左目だけでしたら確認するため、一つ一つの物事に顔を向けて見るようにすると、今まで気付かなかつたことが見え、新しい発見もありました。

現在は、なぜか視界が戻り、視力も出てきました。医師も驚いています。何をしたわけでもなく、ただ人間には自然治癒力があると実感しています。今は、見えることに感謝しつつ、物事を見ようとする意識を強くもつと思えます。

支部だより

◆北足立南部支部定期総会

紙上により開催

去る三月五日(金)令和二年度第二回理事会在紙上にて開催された。また、令和二年度臨時役員会が川口市立並木公民館に於いて開催され、定期総会要項の内容等について協議され、以下のように決定した。

① 本年度支部総会も新型コロナウイルス感染症の拡大状況に改善が見られない事により、紙上開催とする。

② 親睦旅行は中止する。

紙上開催となった令和三年度定期総会は令和三年五月十三日(木)会員の皆様のご理解とご協力により無事終了した。

◆現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会準備会開催

令和三年七月二日(金)川口市立並木公民館において、現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会準備会が開催された。

現職を代表して、朝霞市立第十小学校長宮澤好春校長、鴻巣市立西中学校校長服部幸司校長、南部教



西中学校校長 服部幸司校長、南部教



育事務所吉田元所長、退職校長会より支部長、副支部長四名、幹事九

名が参加した。準備会に於いて左記の事項が決定された。

参加者 現職小中学校長・四十名
退職校長・三十名

テーマ 「現下教育の諸課題」
提案 三名(各校長会より一名)

◆会報「かけはし」の発行

支部の発展と会員相互の一層の親睦と連携をめざし本年度も年三回発行する。広報部が担当する。

◆埼玉県退職校長会総会中止

六月四日(金)羽生市羽生産業文化ホールに於いて、開催予定であった、埼玉県退職校長会総会は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止された。

なお、令和四年度は本支部に於いて開催の予定。詳細については、決定次第お知らせする。

(和田悦男)

ご冥福をお祈りいたします

(7/10現在)

- 中村 六雄様 (川口) 1/18 八十七歳
- 野口 泰様 (朝霞) 2/2 九十歳
- 鈴木 陽一様 (蕨戸) 2/17 八十三歳
- 和嶋 常信様 (川口) 4/16 七十七歳
- 相川 卓一様 (川口) 5/1 九十四歳
- 山口 常義様 (朝霞) 5/5 九十五歳

班だより

川口班

去る五月八日(土)に予定していた定期総会は、今年も新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりました。だが、各理事の皆様方のご協力を得て令和三年度の活動計画を策定することができました。左記に活動の概要を記します。

《行事》

- ① 親睦旅行―コロナウイルス感染予防のため中止。
- ② 文学散歩―十月頃、寛永寺〜根津神社〜夏目漱石旧居跡〜森鷗外記念館〜本行寺界限を散策。
- ③ 美術展―今年度は中止。

《クラブ》

- ① 俳句の集い―句会「四季を詠む」を開催。四月、句集発刊予定。
- ② 健康教室―ヘルシー料理づくりと別所沼公園周辺ウォーキング。
- ③ 盆栽教室―盆栽展の鑑賞教室と十二月十九日松竹梅の寄せ植え。
- ④ ゴルフクラブ―四・六月のコンペ中止。十・十二月は会場未定。
- ⑤ 写真クラブ―撮影会は年二回。撮影会後は研究会を開催。
- ⑥ 絵画クラブ―年六回、写生会と鑑賞会を開催。
- ⑦ 英会話クラブ―八月以降、隔月一回開催。リスニングやコミュ

ニケーションを中心に。年間五回程度開催。

《広報》

◎会報『柏樹』―七月と二月の年二回発行。様々な話題が満載。

◇学校支援体制の充実

◇学校現場ではコロナ禍で大変な状況にあります。出来る限りの支援をしたいと思えます。

《追伸》

◇昨年は、今まで経験したことのない一年となりました。今年こそ一日も早く、「いつもの日常」を取り戻し、充実した活動を目指してまいります。

(加藤行雄)

あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第五十七号をお届けします。

新型コロナウイルスに係る東京都の緊急事態宣言、埼玉県の重点措置が延長されている中、会員の皆様のかげはしに、玉稿を賜りました各位に、衷心から御礼を申しあげます。

今年度の編集には、會田昭副部長、柿崎勲、林俊幸広報部両氏と、松田裕之編集担当幹事が中心となつて当たらせていただきます。これまでご尽力賜りました田代博人前副部長に感謝申し上げます。

(広報部長 羽富 正晃)